

日時 8月16日(土) 天候 晴れ  
 球場 駒沢硬式野球場 第3試合 準決勝  
 審判 球審:茂木 塁審:渡辺登 小林信 並木

天理高校 対 岡山県立岡山操山高校・通信制  
 試合時間 2時間00分 備考 5回コールド

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計	安	失
天理	奈良	7	3	8	1	1											20	10	1
岡山操山・通	岡山	0	0	1	0	0											1	3	5

天理		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	1	2	3	3	4	5	8	9				
1	遊		窪田 旬一	2	2	1	3	四球	左安	死球	四球		三飛							
2	二		山田 大貴	0	2	0	0	死球	四球	四球	四球		四球							
3	捕		名須 和成	4	2	1	3	死球	投邪	右飛	左2		投飛							
4	中		鈴木 克幸	0	3	0	2	四球		四球	四球	中犠								
4	打	左	倉本 真嘉	0	1	0	0							死球						
5	一		大野 邦彦	2	2	1	2	死球		四球	中犠	中2		三ゴ						
6	左	中	小畑 和知	5	1	1	0	三振		三振	左安	遊ゴ		三振						
7	三		田中 忠	5	4	4	4	三安		三安	投安		遊失	中安						
8	投		清水 道広	1	2	0	1	三失		中犠	四球									
8	打		加藤 稔	1	0	0	0						三振							
8	打	投	橋本 幸司	0	0	0	0							四球						
9	右		阿南 三善	4	1	2	0	投ゴ		左安	死球		中安	投飛						
合計				24	20	10	15	残塁:10 併殺:0												
備考																				

バッテリー

投手
清水 道広
橋本 幸司

捕手
名須 和成

投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
清水 道広	3	15	2	1	3	0
橋本 幸司	2	7	1	2	1	0

岡山操山・定

	ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9					
1	一	山口 恒明	1	1	0	0	左飛		死球	三振										
1	打	高 島 一真	1	0	0	0														
2	三 遊 三	清 重 裕 哉	2	0	0	0	投ゴ		遊失											
2	打	坪 田 勝 義	1	0	0	0							三振							
3	捕 投 捕	左 国 重 貴 裕	2	0	0	0	三ゴ		捕邪	四球										
4	遊 捕 遊	投 三 清 水 洋 一	3	0	1	1		三飛	中安	三併										
5	右	石 田 充	2	0	1	0		二飛	三安											
6	左 三 左	右 中 山 亮	1	0	0	0		死球	遊飛											
7	中	村 井 達 夫	1	0	0	0		四球		遊ゴ										
8	投 左 投 右 投 遊	西 懸 友 宏	2	0	0	0		遊ゴ		三ゴ										
9	二	岡 崎 亮 二	2	0	1	0			三振	中安										
合計			18	1	3	1	残塁:6 併殺:1													
備考																				

バッテリー

投手
西懸 友宏
国重 貴裕
西懸 友宏
石田 充
西懸 友宏
清水 洋一
清重 裕哉

捕手
国重 貴裕
清水 洋一
国重 貴裕
石田 充

投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
西懸 友宏	0/3	5	0	0	5	2
国重 貴裕	1	7	2	1	1	0
西懸 友宏	0/3	2	0	0	2	0
石田 充	1	7	2	1	2	1
西懸 友宏	1	12	4	0	5	8
清水 洋一	1	6	1	1	1	0
清重 裕哉	1	6	1	1	2	1

戦評

天理と岡山操山との間で行われた準決勝。初回、天理の攻撃は先頭から3連続四死球で満塁とすると、4番・5番も四球を選び押し出して2点。さらに内野安打などによって一挙に7点をあげた。2回にも安打、犠牲フライで3点を加えて、ここまでで合計10点。2回裏、岡山操山は四死球によるランナーを2人置が、後続を打ち取られて得点することができなかった。続く3回表も天理は攻撃の手を緩めない。この回さらに8点を追加した。大量得点を許した岡山操山は、3回裏に意地の得点をする。死球・エラーで二死一・二塁から4番清水がセンター前ヒットを打ち、1人をホームに迎え入れた。続く5番石田の内野安打で二死二・三塁とするも後続を断られた。岡山操山は、4回以降天理の攻撃を2点に抑えたが、3回までの失点が響き、大会規定により5回コールドとなってしまった。岡山操山は、全員野球により出場8回目にして初の第三位の成績を収めた。一方の天理は先発清水、リリーフ橋本の継投と堅い守りによって2年連続で決勝戦に駒を進めた。